

外国人比率
県内 **2位!**

菊川市データ

外国人住民数 ※1月末現在

3,969人



総人口に対する割合

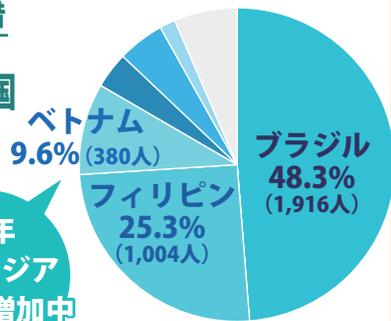
8.50%



国籍

34カ国

近年
東南アジア
出身者増加中



Living Together in Kikugawa

交流

から広げよう、多文化共生の輪



市内では、さまざまな国や文化を持つ人たちがともに暮らしています。お互いを知り、理解を深めるためには日頃の挨拶や地域での交流が大切です。誰もが安心して暮らせる社会にするため、身近な交流からつながりの輪を広げてみませんか？

問い合わせ 地域支援課市民協働係 (プラザきくる内 ☎35-0925)

外国人住民とともに暮らす

菊川市には多くの外国人住民が暮らしており、その割合は県内でも2番目に高くなっています。人口減少や少子高齢化が進む中、外国人住民は地域社会を支える大切な担い手であり、ともに暮らす地域の一員です。

ともに住みやすいまちへ

近年、SNSなどを通じて外国人に関する不確かな情報が広がり、多文化共生の取り組みについて誤解が生じることがあります。こうした誤解を解消し、互いに理解を深めていくためには、日頃から顔の見える関係を築いていくことが大切です。その積み重ねが、災害時などの有事の際にも助け合える関係につながります。

地域で進める多文化共生

関係づくりの第一歩は、身近な地域での交流から始まります。下記の多文化交流エピソードのように、地域での交流は日常のさまざまな場面で広がり、お互いを支え合う関係へとつながっています。このような交流をさらに広げていくため、市や活動団体では、日本語を学ぶ場や交流イベントなど地域交流のきっかけとなる取り組みを進めています。次ページでは、その取り組みの一つである「はじめての日本語ひろば」を紹介します。

■市内の通訳さんが教えてくれた！多文化交流エピソード

scene 1 地域清掃

日本人Aさん

家族みんなで参加してきて、助かっています。地域活動を進めるうえで心強い存在です。



ブラジル人Bさん

参加を機に会話が増え、地域の一員として受け入れられていると感じています。



現場からの声

市内のブラジル人コミュニティを支援する通訳者からのコメント

清掃活動や防災訓練、学校行事など身近な場をきっかけに、日本人住民と外国人住民のつながりが自然に深まっていると感じています。お互いの文化や背景を理解し合いながら関わることで、交流の輪が広がっていくといいですね。



scene 2 学校生活での保護者交流

日本人Cさん

子ども同士の交流をきっかけに、保護者同士もつながり、日常生活の中で多文化交流の機会が生まれました。



ブラジル人Dさん

学校からのお知らせや行事のことを把握できるようになり、子どもが安心して学校に通えるようになりました。

